

## シンポジウム1 企画概要

タイトル	これからの中の認知症ケアと在宅医療
------	-------------------

### 概要

2012年今後の認知症施策の方向性についていわゆるオレンジプラン～が発表され、2013年度にはいくつかのモデル事業が開始され、認知症対策の5カ年計画が策定される。

オレンジプランが目指すものは、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」の実現であるが、在宅医療はこの中で、どのような役割をはたしていかなければならないと考えてみたい。

このシンポジウムでは、4名のシンポジストに登壇いただく。

最初に、遠藤英俊氏に、新しい認知症施策(オレンジプラン)の概要と今後の認知症ケアのあるべき方向性について御解説いただく。

次に、遠矢純一郎氏に、世田谷での初期集中支援チームのモデル事業の経験を踏まえて、認知症の初期対応と在宅医療の役割などについてお話しいただく。

また、小宮山恵美氏が、北区行政がとりくんでいる地域包括ケアシステムであるあんしんセンターサポート医モデルについて報告し、認知症疾患を支援する在宅医のアウトリーチシステムの有効性や課題について解説いただく。

最後に大谷るみ子氏から、認知症になっても大丈夫な街づくりにとりくんでいる大牟田での先進的な取り組みをご紹介いただき、私たちが目指す認知症ケアの方向性について語っていただきたい。

シンポジウムでは、今後の認知症ケアがどんな方向に向かうべきかを確認し、その中で在宅医療の果たす役割について議論を深めたい